

地域市民センター再構築検討委員会 提言書内容（案）

1 提言内容（再構築の方向性）

（１） 共通事項

- 地域市民センターによって地域ごとの特色があることから、それぞれの特色を出した施設にする。
- ころぼっくるのような施設が各地域にあると良いという意見も多いことから、広さは限られるが、ある程度複合的な施設にする。
- 子どもたちは、広場があるだけで自由に遊ぶことができるので、自ら遊びを選択できるような工夫を凝らし、居場所に少しエッセンスを加える程度の整備をする。
- 高齢者などの大人との交流も可能な多世代交流の場にする。
- 居場所にいるコーディネーターのような人が必要である。
- 子ども食堂のニーズは高いが、施設整備に大掛かりな工事とコストがかかることから、会議室等への調理器具の持ち込みによる簡易な食事の提供も可能。引き続き団体が利用しやすい環境を整える。
- 地域市民センター全体として、子どもが行きたいと思える雰囲気を作るように努め、センターの機能やイベント情報等の積極的なPRを推進する必要がある。また、地域外から来館される方に対しても同様に周知する必要がある。

（２） 野塩地域市民センター

- 旧図書館が１階にあるという入りやすい利点と広さを生かし、児童館機能を現在の２階の児童館（遊戯室）から移転させる。
- 児童館の機能としては、入館してそのままクッションなどでくつろげる様なエリアとし、ボードゲームやカードゲームなど、流行に流されないレトロな遊びを用意することで、自由度の高い居場所を作る。
- 大人が囲碁や将棋などの遊びを教えることができる環境を整えることで、多世代が交流できるスペースも設置する。
- 旧読書室をどのように利用するか検討。
- 学習室については現在、第一会議室を借りて利用しているが、どこに移設させるか検討。
- ２階の現児童館（遊戯室）をどのように利用する検討。

（３） 竹丘地域市民センター

- 旧図書館は383㎡と他の旧図書館と比較して面積が広いので、体を動かすスペースにする（室内アスレチックなど）。
- 竹丘団地内にあり高齢化が進んでいることから、高齢者もお茶飲みできるような交流できる場所も望ましい。
- 竹丘地域は既に子ども食堂が多くあるエリアなので、高齢者も利用意できる多世代食堂（コミュニティレストラン）を開く。つどいの広場も同じフロアにあるので、利用者が遊び終わった後に、そこ

でご飯を食べると交流が深まる。

（４）下宿地域市民センター

●市の計画において下宿地域はスポーツ拠点として位置づけられているため、旧図書館においては、子どもたちにもこの場所でしか体験できないスポーツに触れてもらうため、小学生が利用できるような高さのボルダリングを設置するなど検討。

●台田団地、旭が丘団地も高齢化が進んでいるので、子どもも高齢者も集えるサロンがあると良い。

●２階の旧図書館に児童館機能に移す場合、１階の児童館機能をどのようにするか検討。

●２階の旧読書室をどのように利用するか検討。